

信州環境カレッジ 協働講座
親子で体感!SDGs 気候変動バージョン 取組報告

目的

世界的な気候危機は、夏の暑さのみならず、豪雨や集中的な積雪など災害を引き起こす要因ともなっています。多くの人がそのつながりについて自分事としてとらえられていないのが現状です。関心が薄い年代に訴えかけるには、子どもたちと共に学ぶ機会が効果的と考え、地域に根差した活動をする団体と共に、若い世代=子育て世代をターゲットに、わかりやすく、楽しく学ぶ機会を提供し、SDGs を身近な暮らしと結び付けて考えてもらい、気候変動や脱炭素の市民レベルの取り組みにつなげていくことが目的です。

1 回目 夏休みの自由研究攻略の陣 「ソーラークッカーでサンキャッチャーになろう」

■日時：7月30日(水) 9:30~12:30(時間は調整中)

■会場：長野市豊野防災交流センター 芝生広場

■講師 NPO法人みどりの市民

■参加団体：

- ・ 主催：長野県 NPO センター・みどりの市民・信州環境カレッジ
- ・ 共催：豊野地区住民自治協議会

■参加数：大人子ども合わせて22名(長野市みらいハッケンプロジェクト活用)

■講義「地球温暖化と再生可能エネルギーについて」

みどりの市民代表理事・信州大学名誉教授の高木直樹先生から、地球が今どんな状態か？ここ数年暑い日が確実に増えていることや夏がこんなに暑いのはなぜ？温暖化と炭素との

関係、再生可能エネルギーとして、太陽の力を活かして脱炭素をするには？などお話いただきました。高木先生はときどき子どもたちに問いを

投げかけたりしながらわかりやすく説明。子どもたちも、付き添いの保護者も熱心に高木先生の話聞いていました。



■実習「ソーラークッカーでお料理してみよう」



高木先生のお話のあとは、みどりの市民事務局の渡辺さんの指導の下、実際に太陽の力で料理ができるソーラークッカーを組み立てて、お料理に挑戦しました。この日は朝から強い日差しで、ソーラークッカーのお水もすぐに沸いて、枝豆や卵を茹でました。材料は近隣の畑で取れた枝豆(地産地消)や平飼いの卵です。



ゆで卵は大好評!!

← 猛暑日だったので、お湯もすぐに沸きました

ソーラークッカーに仕掛けた温度を測りながら、「芝生も暑くなってるね」「どれくらいの時間でできるかな？」など保護者や友達と相談しながらお料理しました。上手にできた枝豆や卵を食べながら太陽の力を感じた様子。後片付けの時も、渡辺さんの指導で、ゴミの分別もできました。上手にできた枝豆とゆで卵は会場となった豊野防災交流センターの事務所にもおすそ分けをしました。

■感想

実習後涼しい部屋で振り返りの時間を取りました。

- 地球の温度が上がってしまったのはいろんなことが原因だとわかった
- 太陽光だけでこんなに熱くなるとは思わなかった
- CO₂を出さずに料理ができるなんてすごい
- 災害時にも役立ちそう

などの声がありました。保護者もボランティアで参加した高校生も一緒に学ぶ時間となりました。

2回目 秋・安曇野の陣「プラスチックと温暖化って関係あるの？」

■日時：2025年11月3日（月・祝）10:30～12:00

■場所：安曇野市 穂高交流学习センターみらい

■講師：平島安人さん(自然エネルギーネットまつもと)

■参加団体

- 主催：安曇野スタイルネットワーク・長野県NPOセンター・信州環境カレッジ(長野県)
- 共催：みどりの市民・自然エネルギーネットまつもと
- 協力：安曇野市市民活動サポートセンター
- 後援：安曇野市・池田町・松本市・大町市・安曇野市教育委員会・池田町教育委員会・安曇野市社会福祉協議会

■参加数：親子6組（保護者6名と子ども6名）の計12名

■講義「今世界はどうなっているの？気候危機についてのお話」

長野県内でも気温が上がり続けている現状と、どう対策しても2050年までは地球の気温上昇が続くことなどを、グラフを交えて子どもたちにも分かりやすく話していただきました。

また自分ができることとして、個包装された品物を買わずに量り売りなどを利用して、プラごみを出さない暮らしぶりを紹介していただきました。



(講座の感想)

- ちきゅうがたいへんなことになっているんだなあとおもいました。わたしもできるかぎりちきゅうにやさしいことをしたいなあとおもいました。
- 子どもでも分かるように優しく教えてくださいました。
- 勉強になりました。知らないことがいくつもあり驚きました。小学生の子どもには難しいので、写真を多く入れる、実験をする、エコ袋を作るなどの活動が入るとよいと思います。
- 知らなかった情報をたくさん知ることができて良かった。自分が思っていたよりも危機が迫っているんだなと感じました。ただ不安をあおるような話し方ではなく、とても聞きやすかったです。
- 少し難しかったけど、現状を知って少しでもプラゴミを減らそうと思った。二酸化炭素がどうして温暖化の原因になるかについて、もう少し詳しく知りたかった。
- どんな良い対策をしても、2050年までは気温上昇は続くことに衝撃を受けました。また、二酸化炭素の排出割合で産業が31%に対し家庭が22%と知って、家庭から排出する量が産業とさほど変わらないこともびっくりしました。さらに、先生の実践している日頃の取り組みは大変興味を持ちました。家庭でできるアイデアをたくさん知ること、全部はできないけど、できることが一つでもあればやっていこうと思いました。先生の取組をもう少し多めにお話して頂くと、喜ぶ参加者は多いのではないかと思います。私が今興味を持っていることは、家庭用生ゴミ処理機です。自炊で出る生ゴミは、毎回購入ビニール袋に入れて捨てています。スーパーでエコバックを使ってレジ袋を使用していなくても、結局家庭で購入したビニール袋に入れて捨てている現状なので、エコバックを使っても使用している袋の数は変わってないと思っています。そこで家庭用生ゴミ処理機を使用することにより、生ゴミの水分が抜け、毎回ビニール袋に入れなくても良く、ビニール袋の使用量を減らせるのではと思っています。そんな気持ちが前からありましたが、先生のご講義を拝聴できて背中を押してくれた気がします。購入の検討を行いたいと思います。(その他、味噌はビニール袋のものを选ぼうと思います。)

■ワークショップ

子どもグループと保護者グループに分かれて、身の回りにある使い捨てプラスチックを出し合



【ワークショップで出された身の回りにある使い捨てのプラスチック】

ビニール袋、ペットボトル、ジュースとかのフタ、ケーキとかのカップ、お菓子の袋(プテチ、グミ、ヤングドーナツ、アイスクリーム)、ストロー、チラシの袋、お皿、おそうぎの容器、消しゴム、道路のコーン、ボールペン、めがね、クリアファイル、くつ、ボタン、ポリエステル服、おもちゃ

(ワークショップの感想)

- ふくもプラスチックでつくられていることがわかった。
- 子ども、大人で分かれてのグループが良かった。意見が出せて、聞けて良かったです。小さな一歩をがんばります。未来のために。
- 最後の身の回りのエコグッズが参考になりました。
- 実際にプラスチックを使わない暮らしの例をたくさん教えてもらえて、うれしかったです。できることを少しずつでも挑戦します。

■NPO法人みどりの市民の渡辺ヒデ子さんからプラスチックを使わない代替製品（エコグッズ）の展示と説明。



ラップの替わりになる蜜ろうラップ、お皿になる笹の葉やほう葉、カレンダー用紙でつくった袋、紙で作ったクリアファイルや紐、麻や綿でできた製品など。手に取ってもらいながら、プラスチックを使わない暮らしを実践できる工夫を紹介しました。

■パネル展示

土と生物多様性などに関するパネル 10 枚を、来館者が自由に見られるように展示しました。講座に参加しない通りがかりの人も足を止めて見ていました。オープンなスペースならではの。



■担当所感

講義とワークショップ、エコグッズの展示を通して、プラスチックを減らすことが地球温暖化を和らげるためにも必要なことを分かっていただき、量り売りやエコグッズを利用することで「自分たちにもできることがある」と思っていただけ、「未来のために小さな一歩をがんばります」という感想を聞いたことが大きな成果でした。